

さおりさんの人物画



この絵は約2年前に石川さおりさんが描かれた作品です。さおりさんは人物画が得意で、絵の講師の田川幸義さんが「目鼻のバランスをとるのがすごくうまい！」と良さを瞬時に見つけられ、そこから雑誌の女性モデルを見ながら描かれるようになりました。鉛筆でサラサラと描き、黒ペンでなぞります。そして、口紅やマニキュア、かき氷のいちごシロップなど一部だけに色を入れるのが彼女の作風。今回の絵はさおりさんが女性の絵を描き、時を経て田川さんが背景に色を足して出来た合作です。また全然違った雰囲気となってこの絵を見た人たの楽しさを思っています。

ひとは工房 二宮由香里



Monthly Magazine

ひとはつうしん

HITOHA TSUSHIN

(題字:三井裕森)

No.376
SINCE 1985



沖本さんの第一印象は、よくお兄ちゃん(男性スタッフ)を呼んでい
る人、そんなイメージだった。ある時、沖本さんとゆっくり話す時間
があり、家族の話をした際に初めて笑顔を見た。私は初めて見た沖本
さんの笑顔の虜になり、もっとこの笑顔が見たい！引き出したい！
と思うようになった。この写真は、大晦日という特別な日に周りの女
性が化粧をしているのを見て、「ワシもやる！」と張り切る沖本さん
の髪の毛をセットして、「はいチーズ！」とカメラを向けた時の写真。
沖本さんのとびっきりの笑顔を見ると癒されて、自然と私を笑顔に
させてくれる、そんな幸せな力がある。

共同ホームひとは 森末 はるの



文尚さんとのエピソード

「とも い
共に生きていく」

文尚さん。突然の別れを受け止めきれない私を慰め、励ましてくれているのは、きららと過ごす時間です。その中で、文尚さんことをたくさん思い出します。
『私の話しを聞き、気持ちを受け止め、一緒に考えてくれた優しさ。きららの声に誠実に向き合う姿勢。』
『自覚者の責任』を問われた厳しさ。「あんたにかかる」と期待を込めた投げかけ。自分と向き合い、
人ととの出会いを大切にした生き方。
繋いでくれたことを私たちはどう考え、どうやっていけばよいのでしょうか？居心地良さそうに、あの時
のままになっている文尚さんのイスに座るきららが物語ってくれています。私はこの笑顔を大切にして
いける自分でありたいと思っています。

ひとは工房 岡崎 梓



社会福祉法人
ひとは福祉会

0826-46-2960 0826-46-4355 honbu@hitoha-fukushi.com

広島県安芸高田市向原町長田1857番地 編集 | ひとは通信編集委員 印刷・加工 | ひとは福祉会 デザイン | 田中 賢

ぴあ・くらぶ 光川 美希



「ひとはつうしん」の
バックナンバーは
WEBから読めます！



